

小松田儀貞 准教授

<p>I 著書・学術論文等</p>	<p>* 学術論文 1) 小松田儀貞 「「王朝国家」から「官僚制国家」へ——ブルデュー社会学における国家生成の一モデル——」(秋田県立大学総合科学教育研究センター『秋田県立大学総合科学研究彙報』第7号、pp.1～6、2006年3月20日)(单著)</p>
<p>III 社会活動・受賞歴等</p>	<p>1) 秋田県男女共同参画審議会委員(2004年7月～) 2) あきた女性チャレンジ支援連絡協議会委員・会長(2005年5月～)</p>
<p>V その他の活動</p>	<p>* 助成研究 1) 平成18年度科学研究費補助金 基盤研究(C)「「生命操作の時代」における人間生命と社会の存在形態の可能性に関する研究」(課題番号18530391)研究分担者(研究代表者・藤山嘉夫横浜市立大学教授)</p>

長澤吉則 准教授

<p>I 著書・学術論文等</p>	<p>* 学術論文 1) Shunsuke Yamaji, Shinichi Demura, <u>Yoshinori Nagasawa</u>, Masakatsu Nakada: The influence of different target values and measurement times on the decreasing force curve during sustained static gripping work. Journal of Physiological Anthropology and Applied Human Science 25: 23-28, 2006, 1. 2) 長澤吉則: 中・高年者における筋力発揮調整能に関する研究: 要求値に対する最大下の握力発揮追従能力からの検討、秋田県立大学総合科学研究彙報 7 : 7-72, 2006, 3. (单著) 3) Yukio Ikemoto, Shinichi Demura, Shunsuke Yamaji, Masakatsu Nakada, Tamotsu Kitabayashi, <u>Yoshinori Nagasawa</u>: The characteristics of simple muscle power by gripping: gender differences and reliability of parameters using various loads. The Journal of Sports Medicine and Physical Fitness, 46:62-70, 2006, 3. 4) 島田茂、出村慎一、<u>長澤吉則</u>、南雅樹、松澤甚三郎: 継続的運動実施頻度の差異が高専男子学生の体格および体力に及ぼす影響: 3年間の文部科学省の新体力テストによる縦断的資料を用いて、日本生理人類学会誌11: 69-74, 2006, 5. 5) Takanori Noguchi, Shinichi Demura, <u>Yoshinori Nagasawa</u>, Masanobu Uchiyama: An examination of practice and laterality effects on the Purdue Pegboard and Moving Beans with Tweezers. Perceptual and Motor Skills, 102:265-274, 2006, 2. 6) 多田信彦、出村慎一、山田孝禎、<u>長澤吉則</u>、南雅樹、中田征克、大杉貴康、野田政弘: 水球選手におけるメンタルタフネスの因子構造およびそれらを評価する調査票の作成、</p>
-------------------	--

	<p>教育医学51: 282-290, 2006, 6.</p> <p>7) Shinichi Demura, Nobuhiko Tada, Jinzaburo Matsuzawa, Hiroshi Mikami, Tetsuhiko Ouchi, Hiroya Shirane, <u>Yoshinori Nagasawa</u>, Masanobu Uchiyama: The influence of gender, athletic events, and athletic experience on the subjective dominant hand and the determination of the dominant hand based on the laterality quotient (LQ) and the validity of the LQ. Journal of Physiological Anthropology and Applied Human Science 25: 321-329, 2006, 9.</p>
<p>II 学会報告 等</p>	<p>* 学会報告</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) <u>長澤吉則</u>、出村慎一、中田征克、内山応信、山田孝禎、松田繁樹「疑似ランダム波形を用いた筋力発揮調整能測定値の信頼性」(日本体育測定評価学会第5回大会、2006年3月、於：明治薬科大学) 2) 内山応信、出村慎一、<u>長澤吉則</u>、山田孝禎、松田繁樹「障害物が高齢者のTimed "Up & Go" (TUG) Test に及ぼす影響」(日本体育測定評価学会第5回大会、2006年3月、於：明治薬科大学) 3) 山田孝禎、出村慎一、<u>長澤吉則</u>、内山応信、松田繁樹「種々の負荷保持が椅子立ち上がり動作時の床反力、足、膝および股関節屈曲角度に及ぼす影響」(日本体育測定評価学会第5回大会、2006年3月、於：明治薬科大学) 4) 松田繁樹、出村慎一、<u>長澤吉則</u>、中田征克、内山応信、山田孝禎「支持脚の違いが片脚立位時の重心動揺評価変数に及ぼす影響」(日本体育測定評価学会第5回大会、2006年3月、於：明治薬科大学) 5) <u>長澤吉則</u>、出村慎一、佐藤進、中田征克、南雅樹、北林保「高専男子学生の20年間における体格および体力の推移—文部科学省の旧体力テストによる横断的資料を用いて」(日本教育医学大会第54回大会、2006年8月、於：宮崎大学医学部) 6) 辛紹熙、出村慎一、内山応信、野口雄慶、<u>長澤吉則</u>、山田孝禎「規定テンポを用いたステップテストとタップテストのパフォーマンスの比較」(日本教育医学大会第54回大会、2006年8月、於：宮崎大学医学部) 7) 吉村喜信、出村慎一、南雅樹、<u>長澤吉則</u>、乙坂晃寿、山次俊介「瞬発的な等尺性握力発揮における力-時間変数は筋パワーを評価することができるか」(日本教育医学大会第54回大会、2006年8月、於：宮崎大学医学部) 8) <u>長澤吉則</u>、出村慎一、中田征克、宮口和義「健常女性を対象とした棒グラフ表示法による筋力発揮調整能の年代差の検討および標準値の作成」(日本体育学会第57回大会、2006年8月、於：弘前大学文京キャンパス、弘前文化センター) 9) 野口雄慶、出村慎一、<u>長澤吉則</u>、内山応信、辛紹熙、多田信彦「回転板追従動作テストにおける測定順序の影響及び利手・非利手間差」(日本体育学会第57回大会、2006年8月、於：弘前大学文京キャンパス、弘前文化センター) 10) 大杉貴康、出村慎一、<u>長澤吉則</u>、北林保、横谷智久、野口雄慶「片脚立位姿勢保持時における足圧中心動揺の利脚と非利脚の差および性差の検討」(日本体育学会第57回大

	<p>会、2006年8月、於：弘前大学文京キャンパス、弘前文化センター)</p> <p>11) <u>長澤吉則</u>、出村慎一、野田政弘、宮口和義「健常女性を対象とした波形表示法による筋力発揮調整能の年代差の検討および標準値の作成」(日本体力医学会第61回大会、2006年9月、於：神戸国際会議場)</p> <p>12) 北林保、出村慎一、南雅樹、<u>長澤吉則</u>、内山応信、池本幸雄「瞬発的及び調整的握力発揮における性差及び一側優位性」(日本体力医学会第61回大会、2006年9月、於：神戸国際会議場)</p> <p>13) 辛紹熙、出村慎一、南雅樹、<u>長澤吉則</u>、多田信彦「規定テンポを用いたステップテストの年代差」(日本体力医学会第61回大会、2006年9月、於：神戸国際会議場)</p> <p>*学会報告座長</p> <p>1) 日本体育学会第57回大会 測定評価専門分科会口頭発表部門座長(2006年8月、於：弘前大学文京キャンパス)</p>
<p>III 社会活動 ・受賞歴 等</p>	<p>*各種公的団体、審議会への参加・所属等</p> <p>1) 日本教育医学会理事(1994年8月～)</p> <p>2) 日本体力医学会東北地方会幹事(1998年9月～)</p> <p>3) 第62回秋田国体競技力向上対策本部体力診断事業アドバイザー(1998年10月～)</p> <p>4) 秋田県スポーツ医・科学委員会委員(1999年4月～)</p> <p>5) 秋田県立大学全学サッカー部監督(2001年4月～)</p> <p>6) 日本体育測定評価学会理事(2005年4月～)</p> <p>7) 横手地域「秋田わか杉国体・秋田わか杉大会」推進イベント「食とアスリートをテーマにした試食会」アドバイザー(2006年1月)</p> <p>8) 第1回ミズノ・工藤スポーツ杯小学生バレーボール大会大会会長(2006年2月)</p> <p>9) 東北地区大学サッカー連盟大学委員会運営3部A委員(2006年4月～)</p> <p>10) 日本教育医学会大会実行委員(2006年8月)</p> <p>11) 日本体育学会第57回大会大会実行委員会委員(2006年8月)</p> <p>12) 第31回東北地区大学サッカーリーグ大会役員(委員)(2006年9月)</p> <p>13) 日本体育測定評価学会研究助成案作成委員会委員(2006年11月～)</p> <p>*資格、受賞歴等</p> <p>1) 金沢大学大学院自然科学研究科学位論文審査員(博士課程担当者)(2006年7月～)</p>
<p>IV 講演・公開講座等</p>	<p>1) <u>長澤吉則</u>「度数および比率に関する差異の検定の実際－順序尺度による多群間の差の検定方法と解釈について」(日本体育学会第57回大会測定評価専門分科会シンポジウムA、2006年8月、於：弘前大学文京キャンパス、弘前文化センター)</p>
<p>V その他の活動</p>	<p>*助成研究</p> <p>1) 文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)「視覚・固有受容系による上肢・下肢の筋力</p>

総合科学教育研究センター個人業績

	<p>発揮調整能に関する研究」(課題番号17700476)平成17年度～平成19年度</p> <p>2)平成18年度ユニバーサル財団研究助成「高齢者の転倒誘発要因を明らかにするための歩行動作分析と転倒危険度の予測」平成18年10月(共同研究)</p> <p>*報告書等</p> <p>1)長澤吉則「視覚・固有受容系による上肢・下肢の筋力発揮調整能に関する研究」(平成17年度科学研究費補助金若手研究(B)実績報告書、2006年4月)</p> <p>2)長澤吉則「集団スポーツ(球技)におけるフィールドで測定する競技力と体力との関係に関する萌芽的研究」(平成17年度秋田県立大学学長プロジェクト特別研究報告書、2006年9月)</p>
--	--

高橋秀晴 准教授

<p>I 著書・学術論文等</p>	<p>*著書</p> <p>1)孫景元、修剛、呂元明、渡辺貞夫、張麗敏、ノーマ・フィールド、島村輝、王成、朴眞秀、任鋒、大和田茂、荻野富士夫、三浦光則、太陽舜、張如意、徐永祥、田鳴、松澤信祐、呂興師、李修京、王鉄橋、佐藤三郎、高橋秀晴、張朝柯、伊豆利彦、倉田稔、孫毅、姜煥柱『いま中国によみがえる小林多喜二の文学—中国小林多喜二国際シンポジウム論文集—』(東銀座出版社、pp.228～240、2006年2月20日)(共著)</p> <p>2)高橋秀晴『七つの心象／近代作家とふるさと秋田』(秋田魁新報社、全163頁、2006年12月15日)(単著)</p> <p>*学術論文</p> <p>1)高橋秀晴「文学空間あきた／本県近代作家の故郷観」(秋田魁新報社「秋田魁新報」学芸欄、毎週金曜日連載・全34回、2005年8月26日～2006年4月14日)(単著)</p> <p>2)高橋秀晴「石川達三「私ひとりの私」の啓発性」(秋田県青年会館『あきた青年広論』第八十九・九十合併号、pp.90～91、2006年2月28日)(単著)</p> <p>3)高橋秀晴「松田解子の多喜二受容」(至文堂『国文学解釈と鑑賞』別冊、pp.80～86、2006年9月15日)(単著)</p>
<p>III 社会活動・受賞歴等</p>	<p>1)日本近代文学会東北支部運営委員(1995年5月～)</p> <p>2)日本社会文学会『社会文学』第23号編集委員(2005年3月～2006年3月)</p> <p>3)石川達三生誕百年記念事業実行委員会委員(2005年3月～2006年3月)</p> <p>4)秋田県立秋田南高等学校学校評議員(2005年4月～)</p> <p>5)あきた文学資料館調査運営委員会委員(2005年4月～)</p> <p>6)東北新潟出身作家研究会常任理事(2005年4月～)</p> <p>7)株式会社秋田放送番組審議会委員(2006年7月～)</p> <p>8)秋田県高等学校教育研究会国語部会顧問(2006年7月～)</p> <p>9)秋田県教職員健康審査会第1部会委員(2006年10月～)</p>

<p>IV 講演・公開講座等</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 秋田県立博物館「秋田の先覚記念室」十周年記念事業講演会「近代文学史における秋田」(2006年5月13日、於：秋田県立博物館講堂) 2) 日本文学同好会「小林多喜二「一九二八年三月十五日」を読む」(2006年5月14日、於：秋田県生涯学習センター分館ジョイナス) 3) 日本文学同好会「小林多喜二「蟹工船」を読む」(2006年5月21日、於：秋田県生涯学習センター分館ジョイナス) 4) 秋田県民カレッジ／あきたの未来「秋田の近代文学に見られる食Ⅰ—矢田津世子「ふるさと・正月・はららご」、伊藤永之介「秋田」」(2006年6月17日、於：秋田県生涯学習センター) 5) 秋田県民カレッジ／あきたの未来「秋田の近代文学に見られる食Ⅱ—石坂洋次郎「何処へ」の世界」(2006年7月2日、於：石坂洋次郎文学記念館他) 6) 秋田県立秋田明德館高等学校文化講演会「あきた文学資料館開館の舞台裏」(2006年7月22日、於：秋田県立秋田明德館高等学校) 7) 第56回全国高等学校PTA連合会大会秋田大会特別第3分科会基調講演「学習意欲喚起へのアプローチ—支援することの可能性と限界を巡って—」(2006年8月25日、於：男鹿市民文化会館) 8) 平成18年度青少年育成指導者研修会基調講話「文学現象に見る〈青少年育成〉の手掛かり」(内閣府・社団法人青少年育成国民会議・社団法人青少年育成秋田県民会議・秋田県主催、2006年9月6日、於：秋田県青少年交流センター「ユースパル」、後、「平成18年度青少年育成指導者研修会青少年リーダーセミナー報告書」に講演録掲載、pp. 5～11) 9) あきた文学資料館文学講座「伊藤永之介の捉えた戦後日本」(2006年9月9日、於：あきた文学資料館) 10) 京都市立西京高等学校PTA講演会「子どもの意欲を高める環境要因」(2006年11月25日、於：京都市立西京高等学校)
<p>V その他の活動</p>	<p>* 報告書等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 平成17年度秋田県立大学学長プロジェクト研究報告書(2006年8月28日) <p>* 新聞・雑誌掲載等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 特集てい談／石川達三生誕百年記念「石川達三 人と文学」(秋田県青年会館『あきた青年広論』第八十九・九十合併号、pp.36～58、2006年2月28日) 2) 「誕生あきた文学資料館4／提供者の意に応えたい／膨大な小牧、永之介資料」(「秋田魁新報」、2006年4月20日) 3) 「あきた文学資料館開館」(「日本近代文学会東北支部会報」第三十五号、pp. 7～8、2006年9月30日) 4) 「よみがえる松田解子／『おりん口伝』伝」の大仙公演(「秋田魁新報」、2006年10月5日) 5) 「思索の力と開放性」(「読売新聞」、2006年10月12日) 6) 「松田解子／人と文学」(「松川真澄ひとり舞台「おりん口伝」伝」、p. 5、2006年10月22日)

* 記事・取材協力等

- 1) 「ことばの肖像／「文学から見た秋田という空間を、全国に、世界に」(「読売新聞」、2006年1月9日)
- 2) 「「秋田の農民文学とプロレタリア文学」特別展示のご案内」(「秋田魁新報」、2006年9月6日)
- 3) 「悩む若者にどう対応／青少年育成指導者研修会／家族ら接し方学ぶ」(「秋田魁新報」、2006年9月7日)
- 4) 「芥川賞がつかないだ旧交／作家・玄侑さん講演会」(「読売新聞」、2006年10月12日)

* 助言等

- 1) 第56回全国高等学校PTA連合会大会秋田大会特別第3分科会パネルディスカッション助言者(2006年8月25日、於：男鹿市民文化会館)
- 2) 平成18年度青少年育成指導者研修会全体会講師(内閣府・社団法人青少年育成国民会議・社団法人青少年育成秋田県民会議・秋田県主催2006年9月6日、於：秋田県青少年交流センター「ユースパル」)
- 3) 第54回東北地区国語教育研究協議会参与(2006年11月8日、9日、於：秋田県立秋田北高等学校)

* 被書評・引用・言及等

- 1) 書評「『種蒔く人』の精神編集委員会編『『種蒔く人』の精神／発祥地秋田からの伝言』(『社会文学』第23号、pp.173～176、2006年2月10日)
- 2) 引用「松田解子作品集を読む」(「多喜二通信」No.67、p.1、2006年3月6日)
- 3) 引用「松田解子の『おりん口伝』とそのドラマ化作品の比較研究—プロレタリア文学のドラマツルギーをめぐる—」(『教養・文化論集』創刊号、p.49、p.98、2006年3月27日)
- 4) 書評「『種蒔く人』『文芸戦線』を読む会編『フロンティアの文学—雑誌『種蒔く人』の再検討—』／「種蒔く人」顕彰会編『『種蒔く人』の精神 発祥地 秋田からの伝言』(『有島武郎研究』第九号、pp.81～85、2006年3月31日)
- 5) 言及『私の見た日の神七面様』(分銅日香、p.41、2006年4月8日)
- 6) 引用「解題・解説(おりん口伝・おりん母子伝)」(澤田出版『松田解子自選集第2巻』、p.473、p.474、2006年4月20日)
- 7) 紹介『乳を売る・朝の霧』(「松田解子の会会報」第4号、p.3、2006年4月30日)
- 8) 引用「松田解子研究【関連資料】」(「松田解子の会会報」第4号、pp.4～5、2006年4月30日)
- 9) 引用「参考文献」(「多喜二・百合子研究会会報」第177号、p.10、p.11、2006年6月29日)
- 10) 引用「松田解子は現代に何を語るか—『地底の人々』『おりん口伝』および『女人回想』を軸に一」(日本民主主義文学会『民主文学』7月号、p.126、2006年7月1日)
- 11) 引用「中国 小林多喜二国際シンポジウム—多喜二研究史に残る成果—」(至文堂『国文学解釈と鑑賞』別冊、p.274、2006年9月15日)
- 12) 紹介「参考文献」(「多喜二・百合子研究会会報」第178号、p.11、2006年10月20日)
- 13) 引用「研究【関連資料】」(「松田解子の会会報」第5号、pp.11～12、2006年11月20日)

総合科学教育研究センター個人業績

	<p>14) 紹介「七つの心象／近代作家とふるさと秋田——18日に発売」(「秋田魁新報」、2006年12月14日)</p> <p>15) 広告「七つの心象／近代作家とふるさと秋田／著者高橋秀晴(秋田県立大学准教授)」(「秋田魁新報」、2006年12月18日、20日、21日、23日、25日、27日、28日、29日、30日)</p> <p>16) 紹介「七つの心象／近代作家とふるさと秋田」(「秋田魁新報」、2006年12月25日)</p> <p>17) 書評「七つの心象—近代作家とふるさと秋田」(「秋田魁新報」、2006年12月31日)</p>
--	---

紺野 祐 准教授

<p>I 著書・学術論文等</p>	<p>*学術論文</p> <p>1) 紺野 祐・丹藤 進「教師の資質能力に関する調査研究——『教師レジリエンス』の視点から」(秋田県立大学総合科学教育研究センター『秋田県立大学総合科学研究彙報』、第7号、pp.73~83、2006年3月20日)(共著)</p> <p>2) 丹藤 進・紺野 祐「教師の資質能力とバーンアウトとの関係——レジリエンスの視点から」(青森中央学院大学『青森中央学院大学研究紀要』、第8号、pp.1~27、2006年3月31日)(共著)</p> <p>3) 紺野 祐「『進化』と『進歩』——現代人間学からの一考察」(日本ヘルダー学会『ヘルダー研究』、第12号、pp.123~144、2006年10月31日)(単著)</p>
<p>II 学会報告等</p>	<p>1) 紺野 祐「『進歩』の人間学——人類の進化と人間形成」(日本ヘルダー学会2006年度春期研究発表会・シンポジウム、2006年5月20日、於：慶應義塾大学)(単独；ただしシンポジウム「進歩・進化の思想 十八世紀から現代へ」におけるパネリストとして)</p> <p>2) 紺野 祐・丹藤 進「教師のバーンアウトとポジティブ／ネガティブな経験との関係——現『教師レジリエンス』の視点から」(日本教師教育学会第16回研究大会、2006年9月23日、於：山梨大学)(共同)</p>
<p>III 社会活動・受賞歴等</p>	<p>1) 東北教育哲学教育史学会役員(監査)(2005年9月～)</p> <p>2) 平成17年度秋田県生涯学習センター調査研究員(2005年10月～2006年3月)</p>

総合科学教育研究センター個人業績

高階 悟 教授

I 著書・学術論文等	1) 高階 悟「大学生の英語基礎学力向上計画の実践」(秋田県立大学総合科学教育研究センター『秋田県立大学総合科学研究彙報』、2006年7号、pp.85～94)(単著)
II 学会報告等	1) 高階 悟「クイーンズランド州の新しい教育」(日本国際理解研究学会東北支部研究発表会、2006年12月16日、於：カナリヤ保育園)
III 社会活動・受賞歴等	1) 秋田県 TOEIC 推進協議会委員 (2003年4月～) 2) 東北英語教育学会 理事 (2006年4月～) 3) 法廷通訳人登録 秋田地方裁判所 (2005年4月～)
IV 講演・公開講座等	1) 秋田県立大学公開講座「文字・言語そして外国語教育の未来」(2006年5月20日、於：秋田明德館ビルカレッジプラザ) 2) 秋田国際交流協会 グローバルセミナー：「最先端の教育実践校を訪問して：Chevallum S. School」(2006年9月24日、於：秋田県国際交流協会)
V その他の活動	1) 第32回全国英語教育学会高知研究大会 自由研究発表 司会 (2006年8月6日、於：高知大学)

高橋 守 教授

I 著書・学術論文等	*学術論文 1) 高橋守「一般教育の英語(1)：タスク活動」(秋田県立大学総合科学教育研究センター『総合科学研究彙報』第7号、pp.99～104、2006年3月25日)(単著)
II 学会報告等	*学会報告等 1) 高橋守 "A Poster Presentation Project" (第32回 JALT 全国大会、2006年11月3日、於：北九州国際会議場)(単独)

桧山 晋 教授

I 著書・学術論文等	*学術論文 1) 桧山晋 "Element Order in 'The Vercelli Homilies': Postscript." (駒澤大学外国語部『駒澤大学外国語部研究紀要』第35号、pp. 285-317、2006年3月31日)(単著)
------------	---

榎木 蘭鉄也 准教授

<p>I 著書・学術論文等</p>	<p>* 学術論文 (査読あり)</p> <p>1) 榎木蘭鉄也 "English Language Education in India: Should English be a Subject or a Medium?" (日本「アジア英語」学会『アジア英語研究』第8号、pp. 79-85、2006年6月) (単著)</p> <p>2) 河原俊昭 (編者)、川畑松晴 (編者)、<u>榎木蘭鉄也</u>、岡戸浩子、後藤田遊子、田嶋ティナ宏子、原隆幸、樋口謙一郎、山本忠行『アジア・オセアニアの英語』(めこん、pp. 79-100、2006年11月)</p>
<p>III 社会活動・受賞歴等</p>	<p>1) 日本「アジア英語」学会理事 (2006年4月～)</p>

シュカート. スティーヴン. A 准教授

<p>I 著書・学術論文等</p>	<p>* 学術論文</p> <p>1) Stephen SHUCART "The Terraced Labyrinth Framework for Modelling Language Emergence: Part One-The Internal Model" (秋田県立大学総合科学教育研究センター『総合科学研究彙報』第7号、pp.105-110、2006年3月25日) (単著)</p>
<p>II 学会報告等</p>	<p>1) Stephen SHUCART "ESP- Adapting a US High School Science Textbook for the Classroom-Redux" Akita JALT Chapter, July 22, 2006, AIU (単独)</p>

草薙優加 准教授

<p>I 著書・学術論文等</p>	<p>* 著書</p> <p>1) JACET 授業学研究委員会編『高等教育における英語授業の研究－授業実践事例を中心に－』(松柏社、pp.212～213、2006年12月15日) (共著)</p> <p>* 学術論文</p> <p>1) Kusanagi, Y. "How personal history forms teacher's belief." <i>Temple University, Japan Campus, Working papers in Applied Linguistics: Narrative inquiries and case studies</i>, 22, 47-65. April, 2006.</p>
<p>II 学会報告等</p>	<p>1) Kusanagi, Y. "Teaching English through drama to Japanese university students." University of Victoria. Performing Language: International Conference on Drama and Theatre in Second Language Education, (University of Victoria, Victoria, BC, Canada) February 4, 2006</p>

総合科学教育研究センター個人業績

	<p>2) Kusanagi, Y. "Teaching English through the drama approach: One way to maximize learning opportunities in the EFL classroom" Asia TEFL. The Asia TEFL 2006 International Conference (Seinan Gakuin University, Fukuoka) August 19, 2006</p> <p>3) Charles, D., & Kusanagi, Y. "Using drama for motivating the EFL students: Building a classroom community and students' identities." JALT. JALT 2006: 32nd Annual International Conference. (Kitakyushu International Conference Center, Kokura) November 5, 2006</p>
III 社会活動 ・受賞歴 等	<p>1) Temple University, Japan Campus, Working Papers in Applied Linguistics 編集委員 (2005月1月～)</p>
V その他の 活動	<p>*記事・取材協力等</p> <p>1) 「立教大学 大学院・学部おもしろ授業紹介 全学共通カリキュラム 映画で学ぶ英語A」 (立教大学ホームページ、2006年8月)</p>

松村聡子 准教授

I 著書・学 術論文等	<p>* 学術論文</p> <p>1) 松村聡子「英文講読の授業における実践報告と今後の課題」(秋田県立大学総合科学教育研究センター『秋田県立大学総合科学研究彙報』第7号、pp.119-124、2006年3月20日)(単著)</p> <p>2) 松村聡子「描く、エリナー—— <i>Sense and Sensibility</i> における "employment" ——」(東北英文学会『東北英文学会(日本英文学会東北支部)大会 Proceedings 第60回大会』、pp.16-21、2006年3月31日)(単著)</p>
II 学会報告 等	<p>1) 松村聡子「視線の交錯 —— "the fair artist" としての Helen Huntingdon ——」(日本ブロンテ協会2006年大会、2006年10月14日、於：静岡英和学院大学)(単独)</p>
III 社会活動 ・受賞歴 等	<p>1) 内閣府・社団法人青少年育成国民会議・社団法人青少年育成秋田県民会議・秋田県主催平成18年度青少年育成指導者研修会(青少年育成リーダーセミナー) 課題別協議第5グループコーディネーター(2006年9月6日)</p>
V その他の 活動	<p>1) 「フランケンシュタイン!？」(「秋田魁新報」、2006年10月8日)</p>